

# 夜空を見上げて

夏の夜空には七夕で知られる織姫、彦星などを始めとしていろいろな星や星座が輝いています。夏休みに実家に帰ってそんな夜空を見上げるのもいいでしょう。今回は夏の夜空をご案内します。(ぶっち)

## ☆りゅう座

端の四辺形が龍の頭にあたります。 $\alpha$ 星のツバンはおよそ5000年前には北極星でした。これは、地球の自転軸が約2万6000年の周期でコマのように回転していて、天の北極の方向も移り変わるためです。古代の人々が見ていた北極星をぜひ探してみてください。



## 東の空 ～夏の大三角～

こと座のベガ、わし座のアルタイル、はくちょう座のデネブ。夏の夜には大きな二等辺三角形が東の空から天頂へと昇っていきます。これが有名な「夏の大三角」です。

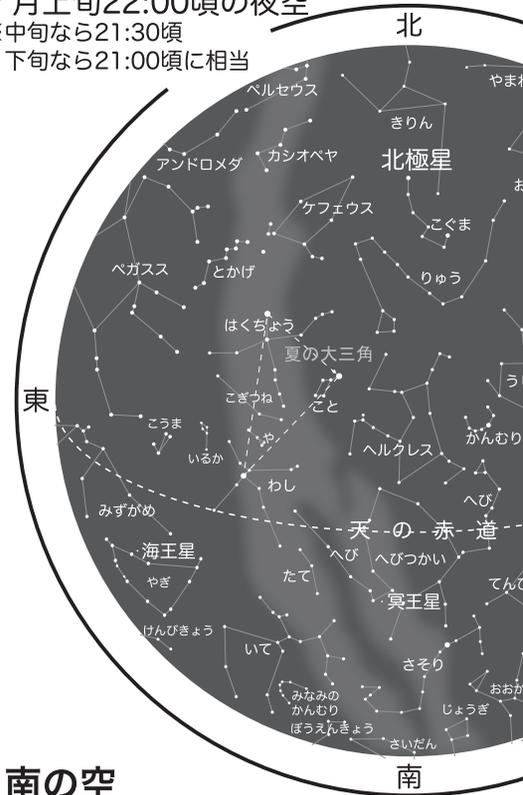
**☆こと座**  
青白く輝く1等星ベガは、夏の夜空の星の中でも最も明るく、七夕の織姫星として昔から親しまれています。こと座は小さくまとまった星座なのですぐに見つけられるでしょう。

**☆はくちょう座**  
ノーザンクロス  
はくちょう座は北十字星とも呼ばれ、整った十字が美しい星座です。 $\alpha$ 星(その星座の中で一番明るい星)のデネブは「しっぽ」の意味で、その名の通り白鳥の尾の部分に輝いています。

**☆わし座**  
織姫星から天の川を挟んだ対岸に彦星アルタイルがあります。この星を中心にいくつかの3等星・4等星が翼を広げて飛ぶ鷲の姿を表しています。

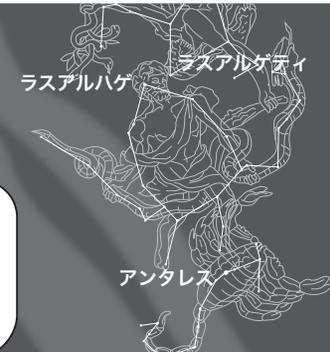
## 7月上旬22:00頃の夜空

※中甸なら21:30頃  
下旬なら21:00頃に相当



## 南の空

真南にさそり座が、その西と東にはてんびん座と方へと目を向けると、へびつかい座が描くギリシャ怪力持ちとして有名な2人の巨人



## ☆さそり座

夏の星座としてギリシャ神話ではオレ、恐れをなしたとしても蠍のいいと言います。レスは赤く輝く

## 七夕と上弦の月

7月7日は七夕ですが、現在の暦の上で7月7日といえば、まだ梅雨も明けず、なかなか星も見えません。実は本当の七夕は、旧暦の7月7日なのです。旧暦で7日ということは、必ず月齢7の上弦の月が見えていることとなります。今年は8月11日が旧暦7月7日にあたりますが、この日の方が天候もいいでしょう。旧暦の七夕の夜は、半月の下で東の空を眺めてみてはいかがでしょうか。

## ☆ヘルクレス座

大神ゼウスの息子ヘルクレスを描く全天でも5番目に大きい星座です。頭の3等星ラスアルゲティはへびつかい座のラスアルハゲと並び輝いています。

## ☆へび座・へびつかい座

へびつかい座は頭のラスアルハゲを頂点に大きな五角形を作ります。へび座は頭と尾の2つに分かれている珍しい星座で、蛇遣いの掴む蛇を表します。

はみだし  
すてーじ

朝には勝てません！  
⇒私もです。1コマ目の授業はすべて切りました。

(人環・院 シマダ)  
(単位がやばいです；編)

## 北の空

北半球では、天空の星はみな天の北極を中心にして反時計回りに回っているため、北の空の星座はほぼ年中見ることができます。明るく輝く北斗七星を含むおおぐま座、北極星を含むこぐま座。そしてこの時期には、こぐま座を取り囲むようにアーチを描くりゅう座が高い位置まで昇ってきます。



### ☆こぐま座

小熊のしっぽに当たる北極星はほぼ天の北極と同じ場所にあり、その位置はほとんど変わりません。こぐま座も北極星を中心に回転するだけで、1年を通して見られます。



## 京大周辺おすすめ観測スポット

京都市内は夜でも明るく、多くの星を見ようとするなら、やはり山や海に出かけたり、実家に帰省したりするのがいいかもしれません。しかし、京大周辺でも場所を選べば、意外に多くの星を見ることができます。

- ・吉田山山頂……暗いので足下に注意してください。
- ・深泥池……肝試しのついでに星空観察はいかが？
- ・加茂川の岸边……北の方に行くことより見やすくなります。
- ・京都御苑……障害物が少なく、東西南北の空がよく見えます。などがお薦めです。

ここに挙げた以外にも、**東西南北がよく見えて、周りに街灯などの明かりが少ないところ**を探してみてください。

また、街中でも、**手で街灯の明かりを遮ったり、双眼鏡を利用すると見やすい**でしょう。

## 流星を見よう！

流星は、1年の間で決まった時期に多く出現します。これは、「**流星群**」が活動するためです。「流星群」とは、流星が天空上のある位置（輻射点）から放射状に流れる現象で、1つ1つの流星群は毎年ほぼ同じ時期に活動する、ということが知られています。

7月下旬から8月中旬にかけては、いくつかの流星群の活動が活発になり、一晩の間に数多くの流星を見ることができます。しかも今年は、月明かりの影響を受けにくい時期と流星群が極大を迎える時期が重なるので、観測条件は最高です。

流星群たちはみずがめ座δ流星群→やぎ座流星群→みずがめ座ι流星群→ペルセウス座流星群の順番で極大を迎えます。特にペルセウス座流星群は年間を通して最も見応えのある流星群の1つで、極大夜の出現数は1時間あたり30~50にもなります。

ます。

このペルセウス座流星群が極大を迎える**8月13日頃**、そして、みずがめ座δ流星群、やぎ座流星群がほぼ同時に極大を迎える頃、**7月28~30日前後**がこの夏お薦めの観測日です。

流星を多く見るには、やはり都会の明かりのない山や海など暗いところがいいでしょう。キャンプ場やペンションなど宿泊場所を確保して、友人と一緒に出かけるとはどうでしょうか？

	7月					8月				
	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20
みずがめ座δ流星群						★				
やぎ座流星群							★			
みずがめ座ι流星群									★	
ペルセウス座流星群										★

※★は極大日

座として座が見えます。天頂のシャ神話の名医アスクレピオス、として知られるヘルクレスといふ巨人が頭を並べています。

として有名なさそり座。ギリはオリオンの天敵として描かれたオリオンは死後星座にのいない冬にしか空に昇りません。心臓部に輝くα星アンタ輝く星として知られています。

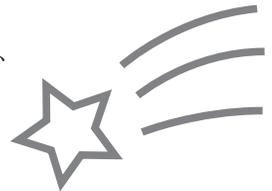
### 誕生星座はいつ見える？

誕生星座は、誕生日の夜によく見えるわけではなく、実際にはさそり座（10/24~11/21）なら7月頃というように、およそ4ヶ月前が見頃になります。もともと黄道十二宮は太陽がどの星座の中にあるかを示すもので、その星座は太陽と共に昼の空に昇っています。さらに、星占いが作られた時代とは地球の自転軸の変化により太陽の位置と星座を通過する時期がずれているため、このような差が生じるのです。

### おわりに

この夏に見られる星座や流星群を紹介してきましたが、いかがだったでしょうか？

見え方に違いはあれ、星を見ようと思えば、晴れの日ならいつでもどこでも見ることができます。ふと思い出したときに夜空を見上げてみてください。夏の夜、何もすることがなくて暇なときに、試験勉強に疲れたときに。ベランダや家の前に出て夜空を見上げてみてください。意外に綺麗な星空に心癒されるかもしれませんよ？



はみだし  
すてーじ

今年は微積再履クラスでサークルの例会ができる。  
⇒私もできると思っていたらみんなに裏切られました。

(I・2 DんDん)  
(微積の単位なんてとる人嫌いです；編)